特選

陽の恵み　女は春の彩になる

東近江市　小林清次郎

（評）永かった冬が過ぎやっと春の兆し、装いも心も何となく昂って嬉しく賑やかになる、桜の季節はおんなの季節爛漫の時、華やかに詠んでいて秀句。（柴田）

特選

陽の恵み　双葉のコーラス響き合う

後三条町　吉原初美

（評）黒い大地が春暖の風に、緑の大地に様変わりする。一草一草の草花は成長してゆく姿に生命の叫びその事が「賛歌」では。自然は偉大、生命の不思議を見る。（西村）

特選

ねじを巻く　花咲け「令和」我も又

蒲生郡竜王町　松瀬文恵

（評）新年号の令和。平成の時代に終わりを告げ、希望を胸に花開く期待を持って居る。明るい夢を描いて明日の飛躍を模索されている。（安居）

入選

古城の美　苔むす石が歴史添え

普光寺町　河合淳子

（評）戦国時代の歴史を物語る、栄枯盛衰が偲ばれて郷土の誇り、日本の宝。（柴田）

入選

陽の恵み　百花百草萌え出づる

犬上郡豊郷町　元持和子

（評）春を待ちかねるのは万物いづれも皆一緒、皆が詠む句材であっても萌え出ずると言うあたりがすばらしい。（柴田）

入選

ねじを巻く　輝く時代（とき）へ老いふたり

日夏町　大菅恵美子

（評）齢重ねた老夫婦お互いを励まし合い乍ら新しい元号の時代へ夢を賭け、二度目の東京オリンピックもみられそうだね。（柴田）

入選

陽の恵み　白衣にせがみ窓花見

長曽根南町　髙恵三郎

（評）病躯に平常心を失し、外は春陽の日々。看護師と愛でた窓からの眺めに一と時春を聞き入る病床での喜び。（西村）

入選　陽の恵み　皺は幸わせ老いの農

犬上郡豊郷町　西山　肇

（評）老いを楽しみ笑顔が眩しい元気な証。今日も地下タビ鍬を振る。（西村）

入選　古城の美　今日も綺麗に陽を纏う

稲部町　辻　昭子

（評）春の日影が降り注ぐ天守閣。ひこにゃんも張り切る一役観光案内に汗流す。（西村）

入選　陽の恵み　光の波に乗ってゆく

芹川町　日比野　美鈴

（評）総じて躍動の春の訪れ、自然は総じて緑の乱舞となる。心のどこかに希望の春が脈打っている。（安居）

佳作　古城の美　郷土の誇り輝いて

外町　筑田弘正

佳作　古城の美　往事を偲ぶ天守閣

新海町　野田ヒサ子

佳作　陽の恵み　受けて彩ます老いの夢

米原市　日比陽子

佳作　ねじを巻く　明日に夢を足して行く

外町　筑田豊子

佳作　古城の美　旅の眺めに優る四季

新海町　木村さち子

佳作　陽の恵み　笑顔に春が一歩づつ

鳥居本町　滝口寿美夫

佳作　ねじを巻く　抜きつ抜かれつ共白髪

田附町　上田文子

佳作　古城の美　世界に誇る文化財

長浜市　野口成人

佳作　ねじを巻く
医師の余命を前向きに
蒲生郡竜王町　松瀬博美

佳作　陽の恵み
表も裏も風が知る
鳥居本町　西川作江

佳作　ねじを巻く
老の枯木もストレッチ
犬上郡豊郷町　北川乙彦

佳作　ねじを巻く
言の葉探がす八十の脳
愛知郡愛荘町　青木郁子

佳作　ねじを巻く
摘みたて新茶祖父の味
長浜市　勝木岩松

佳作　古城の美
金亀は凜と花の山
長浜市　勝木珠枝

佳作　ねじを巻く
錆びた我が身が奮い立つ
犬上郡甲良町　上野初子

佳作　ねじを巻く
体内時計目覚めさす
西今町　松岡信廣

佳作　古城の美
安穏の世を写し出す
新海町　辻一男

佳作　陽の恵み
生きる歓喜の蕾だく
田附町　大谷みつ子

佳作　陽の恵み
花ある人生（いのち）身に染みて
蒲生郡竜王町　松瀬竜子

佳作　古城の美
水の流れもそのまゝに
本庄町　今堀伊太郎

佳作　ねじを巻く
自己研鑽の積み重ね
極楽寺町　古川寛二

佳作　陽の恵み
あまねく大地に幸あふる
稲里町　藤野千枝子

佳作　古城の美
凛凛しき雄姿脈脈と
普光寺町　河合仙治

佳作　古城の美
歴史を誇り聳え立つ
堀町　河分武士

佳作　陽の恵み　心も身体もリフレッシュ

正法寺町　金子君子

佳作　陽の恵み　五感ときめき深呼吸

清崎町　辻　哲雄

選者吟

ねじを巻く　昭和懐かし　オルゴール

柴田　遊児

陽の恵み　光合成が　醸す味

西村　吟雪

古城の美　天空映えて　史を語る

安居　尚文

《総評》

冠句部門については、今年度増加の傾向にあり嬉しく感じます。今年度も柴田、西村両宗匠と不肖私も加えられて審査を行いました。冠句とは冠題について、七・五で一句をまとめます。冠題につかず離れずまとめるところに冠句の妙味があると思います。

毎日の生活の中で多種多様な原点が存在すると思います。それを如何に句に詠み込んでいくか、ここに冠句の普遍性がひそんで居るのではないかと感じます。今年度二二八句の応募がありました。慎重に選考を進め新しい発想高い創作心等を中心に進めました。

今年度の冠題は陽の恵み、古城の美、ねじを巻く、ですが陽の恵みは生活を通して自然の移り変りを感じた事が多く表現されて居ります。古城の美はやはり彦根城を中心にして史の重みや伝統について文化的価値観を詠まれて居りました。ねじを巻くは年代の中で健康面を中心に感じられた事例を句に感じました。

年代も生活も異なる中から生れた吟想を尊重し乍ら選考を致しました。

今年度選外となられた方も来年こそはと目標を持ち詩情豊かな感性を日々培われんことを願い上げます。

（安居）